

A評価の画像を目指して



一般財団法人大阪府結核予防会

放射線部部长 心光 誠

はじめに

平成29年12月21日（木）と22日（金）の2日間にわたり、結核研究所におきまして胸部画像精度管理研究会が開催されました。

本部・各支部から医師14名，診療放射線技師66名，機器メーカーから10名，事務局から4名の総勢94名が参加し胸部デジタル画像の評価を医師，診療放射線技師が6班に分かれて行いました。

講演では富士フィルムメディカル（株）大島裕二氏による「富士フィルムデジタルシステムにおける撮影条件」，キャノンライフケアソリューションズ（株）山崎智史氏による「キャノン（CXDI）における撮影条件の現状」についてお話がありました。デジタル画像の画質に影響を与える因子，撮影条件，画像処理など，理想の胸部画像を作るのに大変重要な講演になりました。

デジタル画像の評価

結核研究所対策支援部技術専門役の星野氏からオリエンテーションがあり評価方法の説明を受けました。評価方法は濃度，コントラスト，鮮鋭度，粒状性，姿勢，性腺防護，装置の整合・マーカーの七つの因子についての評価を行い，最終的に読影価値からみた総合評価を行います。全てに優れたものAとし，B，C上，C中，C下，D，Eの順に総合評価されます。モノクロ300万画素2画面構成のビューワーを使用して昨年度のA評価の画像と今回評価する画像を比較しながら評価を行いました。

先ずは「目合わせ」を行い全ての班で同じ画像を評価しバラツキを減らします。評価の厳しい班は少し甘めに，甘い班は少し厳しめに，を考慮しての評価を促します。

本番は1画像につき一つの班が判定し，別の班が再判定を行い評価されます。

評価結果（暫定）

240画像中，A評価53画像（22.1%），B評価98画像（40.8%），C上評価88画像（36.7%），C中評価1画像（0.4%），昨年度よりA評価が減少しC上評価が増加しました。

今年度から間接撮影フィルム評価が無くなりデジタル画像のみになりました。充実した内容の濃い研究会になり来年度はA評価が増えることを期待したいと思います。

おわりに

胸部エックス線画像においてアナログからデジタル画像へと移行していく中，我々，診療放射線技師はアナログ写真と同様，理想となる画像の追求と精度管理を確立することが重要な役割であると思います。今回の研究会に参加して，目標となる画像を作る上での撮影条件や画像処理パラメーターの設定，精度管理など大変参考となる道標になりました。報告書を参考に来年度はA評価が増えるように努力したいと思います。

最後になりましたが，この研究会に携わっていただきました先生方，結核予防会のスタッフの皆様，講演と助言していただいたメーカーの皆様，そして参加者の皆様方に大変お世話になりましたことを深く感謝申し上げます。🐱



デジタル画像の評価を行う参加者